

	F 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・売上高が順調に増加している。 ・水稻や大豆、そばの収量が低いことに対して、技術支援の継続、鳥獣被害対策等を実施することによる、品質及び収益向上に期待する。 	積み重ねて行きたいと考えております。
	G 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・生産組合の課題を良く捉えており、適切な支援活動が行われている。しかしながら、生産組合の自助努力だけでは改善できない大きな課題も抱えており、更なるフォローの要望が高まっている。一例では、当地区で作付けが定着している“そば”については、政策に振り回されないようしっかりと取り組みたい。将来的には米の生産調整と切り離れた作物の振興策を考えたいところだ 	<ul style="list-style-type: none"> ・そばは、固有の品種を有し実需者からの引き合いも強く、経営の主力を成していることから引き続き安定した生産が重要であると考えます。 ・今般の水張ルールの5年要件につきましては、水張が難しい一部のほ場については畑地化促進事業を活用し、安定的に生産ができるよう対処したところだ。 ・今後も、農政変化に応じてどのように対処したら良いのか関係機関と連携しながら検討していければと考えております。
	H 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・集落営農組織の運営については、農業政策により大きく左右されるので、水張ルールの5年要件なども含めた検討も必要となってくると思われる。安定生産技術支援については、基準年よりも増収されているところは、評価できる。 	
	平均	3.75	
No.2 土地利用型法人によるえだまめ生産体系の導入定着	A 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最終年度ですが、昨年の大雨のリベンジができ、排水対策と雑草対策の技術の向上と効果が見られていること、何より、法人経営者に新しい品目を取り組み、挑戦する経験を伴走していることがすばらしいと感じました。 ・後半で、収支の分析楽しみにしております。 ・山形県の川西町のえだまめ選果ステーションの記事があったので添付します。ご参考程度に。ここまでJAが取り組むということは、転作でえだまめで収支がよくなる証拠では？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県の事例のご紹介ありがとうございます。県内・県外の様々な事例を収集しながら、地域の特性に応じた提案ができるよう努めてまいります。
	B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・評価できる点 1. 水稻と競合しない作付けスケジュール、早生品種の採用 2. 排水対策 ・気になった点 1. 昨日、今日も豪雨、他の産地でも排水対策に困っているのでは？成功事例が他の産地でも共有されると良いですね。 2. 手取り除草…人手とコストのバランス 	<ul style="list-style-type: none"> ・排水対策については、農業・園芸総合研究所と連携して実施しているものですが、試験研究として他の産地・品目においても試験が行われており、その成績によっては普及技術等として他の地域にも情報共有されることとなります。 ・連作の状況や雑草防除の管理によって、当年、さらに翌年以降の雑草の発生量が変わってくるものと考えられます。手取り除草の実施に当たっては、雑草の発生状況、エダマメの生育や管理作業への影響、次年以降の作付け予定なども総合的に勘案しながら、生産者への助言を行っています。
	C 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・R4年は、大雨の自然災害被害ではありましたが、その対策としての排水や、防除等の指導や作付けの工夫など評価できると思います。また、当年の販路までサポート体制なども良い支援だと思います。年々、定量的数値目標値を上回っており今後も期待出来るかと思えます。温暖化や豪雨など、近年様々な自然災害や環境問題が多発しておりますので、様々な他方面に向けてのサポートをお願いします。 	
	D 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・排水対策、雑草防除等栽培技術支援の成果のより収量増加してきている点良かった。土地利用型法人の農繁期、農閑期の労働配分については、天候に左右される為、余裕のある生産体系を確立してゆく必要があると思われます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・悪天候による播種や収穫等の遅れについては、やむを得ない部分もあるかと思われませんが、予め余裕を持った作付けスケジュールを立てることや、排水性のよいほ場の選定・排水対策の実施等により作業の遅れへの影響を緩和するなど、基本的な対応を重視して進めていきます。
	E 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は天候の面で課題があったが、今年度は順調に進んでいる。この調子で進めていただきたい。 	
	F 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・農地整備事業後の高収益作物としてえだまめを導入しており、実績を積み上げることにより、他法人のモデルになってほしい。 排水対策を行い、生産体系の最適化を図り、農業・園芸総合研究所等と連携していくことにより、収量、品質が安定することを期待する。 	
	G 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年間継続した取り組みにより、高収益作物の定着化に向けて様々な課題をクリアし、一定の成果が得られているように感じました。 	
	H 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年は洪水被害により、1法人の圃場が皆無となってしまったが、今年度は排水対策が活かされ、増収につながった。生産者手取りが向上できるよう今後もご支援をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度が終期となっている本課題について、次年以降のフォローアップ等は、対象者や関係機関のご要望等も踏まえながら、検討していきます。
	平均	4.25	

No.3 次代を担う生産者の育成による梨産地活性化	A 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・若手後継者に対して、土壌分析や新たな技術を指導されて、経験や勘だけない技術を求め、成長されている様子が文面から感じました。 ・産地部会の計画作成支援は、大変すばらしい支援だと思います。計画時は、やるべきことの整理に時間を費やしがちですが、みんなが集まって、技術や品質をお互い刺激を受けながら成長していくことの必要性やこれから会がいろいろな活動をする中で自分たちが成長につながることをしっかり腑に落とすことが大事であるように感じました。タイムリーにラインで現場共有など今ならではの情報共有方法なども期待します。 ・余談ですが、仙台あらはまフルーツパークのジョイント栽培の技術を登米で実施していましたが、梨でも可能な技術なのでしょうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・利府町の梨産地を担う若手生産者4名を中心として、新技術・省力技術の導入を支援するとともに、土壌分析などの基本技術についても支援要望が強いことから、勉強会を開催し次期作に向けた支援を計画しています。 ・産地計画策定に向けて、10月20日には関係機関が構成員となり「利府町果樹産地協議会」が設立されます。普及センターでは、産地計画の本格的な策定に向けて関係機関と連携しながら、生産振興に資する国補助事業の活用を見据えて実効性のある計画となるよう支援を行うこととしています。ラインの活用については、農業者の意向を確認しながら検討してまいります。 ・ジョイント栽培は、梨においても可能な技術です。 	
	B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌診断の読み方とそれに基づく管理…勉強会。生産者が積極的に参加のいしを示しているとのこと、楽しみです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い生産者が課題解決に取り組む姿勢は、産地全体にも広がる可能性もあることから、若い生産者のつながりを醸成しながら、技術力向上の支援を行うこととしています。 	
	C 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年から始まったプロジェクト課題で、今回初めて紙面での確認でしたので、ぜひ検討会での具体的な話を聞いてみたかったと思いました。期待される対象の変化等が具体的な数値化されてなく、ぜひ3年計画をみてみたいと思います。利府梨は需要が多く、供給が足りておりません。今後の生産者の育成において、期待したいところです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本課題の計画期間において、対象としている若手生産者4名の新技術導入の取組件数を6件増加させることを目標としております。目標の達成に向けて、技術支援に加えて、若手生産者同士の交流活動についても支援を行うことにより、自発的な課題解決や取組を支援してまいります。 	
	D 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・産地を継続し活性化するための支援が活動内容からよく機能し成果が出始めていると思います。今後は、更なる担い手を増やして行くための支援、活動を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに設立される協議会による産地計画策定においては、産地の将来像を明らかにするとともに、新たな担い手を支援できる計画となるよう、普及センターとして関係機関と連携しながら支援してまいります。 	
	E 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新しくプロジェクト課題とされた取組であるが、参加農業者の意欲も見受けられ、この調子で進めていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若手生産者に対して、基本技術から新技術や新品種に至るまで、状況や要望に応じた支援を切れ目なく実施してまいります。 	
	F 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・活動期間が令和5年度からなので、評価については難しいところである。 支援対象者は、新技術・省力化技術等への関心が高いので、新品種や土壌分析に関する勉強会を行い、産地活性化につながることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若手生産者を中心として各種の勉強会を開催し、若手生産者同士のつながりを醸成するとともに、交流活動の定着を支援し、産地活性化につなげたいと考えております。 	
	G 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・部会員の高齢化が進み、廃園が加速するのではないかと懸念している。一方では、消費者から利府梨を購入したいとの要望が年々増えており、品薄感が高まっている。 ・支援対象者への継続的な指導や産地活性化(再生)に向けた具体的な取り組み提案を期待しております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産地計画策定に向けて、生産者の今後の生産計画などの意向を確認しながら、地域全体で産地活性化の取組を支援するとともに、地域おこし協力隊などの新たな活動も支援してまいります。 	
	H 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は、温暖化の影響で過去の技術や各品種の養生期間など変わってきていると思われる。それらも含めたフォローが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若手生産者に対して、基本技術から新技術や新品種に至るまで、状況や要望に応じた支援を切れ目なく実施してまいります。また、産地計画に基づく、国の補助事業などの活用を進めてまいりたいと考えております。 ・本年度は、「なし生育情報」を毎月作成し技術対策情報発信をしてまいりました。引き続き、状況に応じた情報発信や現地巡回を通じてきめ細かな技術支援を行ってまいります。 	
	平均	3.63		
	No.4 水稲乾田直播栽培の技術定着による収量向上	A 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・規模拡大が必要な農家にとって、乾田直播栽培が各地で定着していることは普及活動の成果だと思います。同地区では、さらに毎月の勉強会でメンバーを増やしてネットワーク作りも強化できていることがすばらしいと思います。 ・10aあたりの収支(労務費も含めて)の乾田平均と自分との比較、慣行栽培(苗)との比較検討会の開催などより突っ込んだ内容の勉強会の報告を期待しております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年、労働時間の調査を行っているため、それを基に今後収支の比較が行えるか検討したいと思います。
B 委員		<ul style="list-style-type: none"> ・評価できる点 1. 収量が確実にアップしている。 2. 参加者の広がり ・感想 1. 人手不足の中、直播は必須だと思います。みどりの食料システム戦略との関係で、直播の減農薬・減肥料の方向性は？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者含め勉強会メンバー内で基本技術が定着しつつあり、意見交換の中で除草剤や肥料の削減、堆肥の活用等の話題も度々挙がるようになりました。これらについては、まだほとんど研究報告等がなく、乾田直播先進地を中心に試験が始まった段階です。新しい情報提供を随時行うとともに、除草剤の削減については散布時期や剤の種類等、取組者と一緒に検討して進めたいと考えております。 	
C 委員		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化に伴い、今後は地域の担い手や法人に農地の集積が進むのが明らかな時代の課題の取り組みが評価できると思います。他県などでは、ドローンによる直播や緑肥す 	<ul style="list-style-type: none"> ・このプロジェクト課題は今年が終了年度ではありますが、本プロジェクト課題で得た成果を基に、他の地域や栽培者へも波及できるよう支援を継続して行いたいと思います。 	

	D 委員	き込みなど、最先端のスマート農業が日進月歩で進んでおります。国や市。県など様々な補助金もあがっております。更なるプロジェクト課題として、今後も活動を期待したいと思います。	
	E 委員	・年々、乾田直播の面積が増加してきてる中での計画設定、支援が的確に行われていると思います。近年、天候変化に伴う作業適期を視野に入れた勉強会もあると良いと思います。	・月1の勉強会開催によって、その時点の気候に合わせた栽培管理の情報提供を行ってきました。しかし、近年高温の影響等で、出穂期や刈取時期が移植栽培と近くなる傾向にあるため、作業時期の確認・見直しも視野に入れて栽培暦の改定等を検討していきます。
	F 委員	・本市の主要な農産物である水稲につき、乾田直播栽培という皆が興味を持つ技術にかかる意欲的な取組みとして、昨年度から興味をもってその技術普及を見ていた。雨で現地視察ができなかったのは残念であったが、着実に参加者を増えるなど、これまでの取組が受け入れられているものであり、引き続きかんばっていただきたい。	・今後水稲の省力化を進めていく中で活用される技術となるよう、これからも支援していきたいと考えております。
	G 委員	・生産者間のネットワークは非常に重要であり、情報共有や技術交流を図ることにより、収量確保につながると思われる。今後も定期的に勉強会を開催してほしい。	・プロジェクト課題としては今年度で終了ですが、栽培上のポイントを押さえられるような勉強会のあり方について検討します。
	H 委員	・乾田直は栽培技術も定着しつつあるように感じている。早くから取り組んだ者は指導的立場となっており、管内でも平場を中心に乾田直は栽培が拡大していくと思う。	・経営規模を拡大する中で、省力かつ低コスト化を図ることができる本技術は、これからより一層の普及拡大が見込まれます。農業者が活用しやすい技術となるよう、これからも支援していきたいと考えております。
	平均 4.37	・当地区においても乾田直播栽培も面積が拡大してきている。まだ課題等についてはあるように思われますので、しっかりと検証がなされ少しでも早い栽培技術の確立を望みます。	・黒川郡でも新規取組者や関心を持つ方がおり、今年度から状況の聞き取りや課題の整理を行っています。新規取組者がスムーズに技術導入できるよう、技術確立に向けた支援をしたいと思っておりますので、その際はご協力よろしくお願いたします。
その他	A 委員	・各プロジェクトに共通しているのは、技術を共同で指導する過程でネットワークができることは普及活動の醍醐味だと感じます。農業は孤独な世界でもあり、個々の経営しか見ないと発展は制限されると思われませんが、職人である経営者が技術指導で集まる中で、さらに自主性を高めるようなゼミ形式での勉強会など検討できることがあればとも思います。	・生産者同士が自ら集まり、考え、互いに技術・経営が向上するような自主性のある勉強会等が実施されるよう支援してまいります。
	C 委員	・産地協議会の計画支援。これから産地づくりというのが宮城県では大きな課題であると思います。前期のシャインマスカットのような新品種の産地化、今後はさらに園芸の産地化を JA や市場と連携して施設栽培の団地化（農家が賃借で集まって技術を磨ける場）や選別等の支援を期待しております。	・消費者の需要に応えられるよう生産者の若返りを含めて、産地の活性化を支援してまいります。
	G 委員	・高齢化に伴い、また、社会の需要も変化しています。地球の自然環境も全く想像していない変化になっています。未だかつて、日本人が対面したことのない状況です。従来にとらわれない、サポートをお願いしたいと思います。	・近年、局地的な豪雨被害、温暖化等により湿害や高温障害が発生しております。そのような影響を事前に回避、低減できるような対策を支援してまいります。
	H 委員	・近年の気候変動(温暖化)を踏まえて、稲作であったり園芸など、作目別の新たな技術指導が求められている。また、防除体系の見直しなども必要かと思っております。	
		・農業を取り巻く厳しい環境の改善はいまだ見通せませんが、少しでも生産に意欲をもって取り組めるよう今後も各方面からご支援をお願いします。	

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する